

第379号 (令和2年4月3日(金)発行)

発行所

京都女子大学 宗教部

京都市東山区今熊野北日吉町35

電話 075 (531) 7074

華利陀分



生きるための智慧

宗教部長 普賢保之

いよいよ新年度のスタートです。今年に入ってから新型コロナウイルスの流行が人々を不安に陥れています。この原稿を書いている二月末時点では中国、日本だけでなく韓国、イタリアでも急速に感染が広がっている

と食器が棚から落ちて散乱してしまいました。テレビのニュースでも深刻な状況が次々に伝えられています。

この震災時のことでよく覚えているのがデマです。日頃からお付き合いのあった近所の方が「今晚、亀岡を震源とする大きな地震が発生するから、車の中に避難した方が良い」とわざわざ知らせに来てくれました。この方の行為は悪意ではありませぬ。むしろ善意からの行動でした。しかし、この方の取った行動は、自らの不安から出た行動であり、人々を混乱に巻き込みかねない行動でもありました。避難した方が、地震の発生がそこまで特定できるのであれば、一月十七日の地震も予知できたはずなんです。不安になると根柢のない情報に振り回されてしまうのです。

以前、あるところで「阿弥陀仏の救い」というタイトルの話す機会がありました。仏教の最終目標は「さとり」を聞くことですが、浄土教の教えでは「さとり」は死後で語ります。それでは生きてる間、仏教は私たちとは関係がないのかといえ

ばそうではありません。親鸞聖人は生きてる間の「救い」と、死後の「さとり」を説いています。今の「救い」があるからこそ死後の「さとり」もあるのです。今の「救い」なしに死後の「さとり」もありませぬ。

ではどのような状態を「救い」というのでしょうか。「安心感」と言い換えても良いと思います。それでは本当の「安心感」は、どのようにしたら手に入れることができるのでしょうか。たとえば、知らない場所に連れて行かれ、真つ暗闇な状況に放置されれば、誰でも不安になります。嫌んでも不安になります。嫌んでも不安になります。嫌んでも不安になります。

「救い」というのは、この方の取った行動は、自らの不安から出た行動であり、人々を混乱に巻き込みかねない行動でもありました。避難した方が、地震の発生がそこまで特定できるのであれば、一月十七日の地震も予知できたはずなんです。不安になると根柢のない情報に振り回されてしまうのです。

以前、あるところで「阿弥陀仏の救い」というタイトルの話す機会がありました。仏教の最終目標は「さとり」を聞くことですが、浄土教の教えでは「さとり」は死後で語ります。それでは生きてる間、仏教は私たちとは関係がないのかといえ

ばそうではありません。親鸞聖人は生きてる間の「救い」と、死後の「さとり」を説いています。今の「救い」があるからこそ死後の「さとり」もあるのです。今の「救い」なしに死後の「さとり」もありませぬ。

阪神淡路大震災 平成七年(一九九五)一月十七日の早朝に阪神淡路大震災が発生しました。すでに発生から二十五年が過ぎました。京都市内も激しく揺れました。当日は小学生の娘と二人で寝ていました。私は前日まで寺の法要があり疲れが熟睡していませんが夢現の状態です。揺れたことは覚えていますが夢現の状態です。私は睡眠に襲われ再度寝ようとしたのですが、娘が怯えている様子を見て、ただ事ではないと思いついてテレビをつけて台所に行ってみました。すると

と食器が棚から落ちて散乱してしまいました。テレビのニュースでも深刻な状況が次々に伝えられています。

この震災時のことでよく覚えているのがデマです。日頃からお付き合いのあった近所の方が「今晚、亀岡を震源とする大きな地震が発生するから、車の中に避難した方が良い」とわざわざ知らせに来てくれました。この方の行為は悪意ではありませぬ。むしろ善意からの行動でした。しかし、この方の取った行動は、自らの不安から出た行動であり、人々を混乱に巻き込みかねない行動でもありました。避難した方が、地震の発生がそこまで特定できるのであれば、一月十七日の地震も予知できたはずなんです。不安になると根柢のない情報に振り回されてしまうのです。

以前、あるところで「阿弥陀仏の救い」というタイトルの話す機会がありました。仏教の最終目標は「さとり」を聞くことですが、浄土教の教えでは「さとり」は死後で語ります。それでは生きてる間、仏教は私たちとは関係がないのかといえ

ばそうではありません。親鸞聖人は生きてる間の「救い」と、死後の「さとり」を説いています。今の「救い」があるからこそ死後の「さとり」もあるのです。今の「救い」なしに死後の「さとり」もありませぬ。

ではどのような状態を「救い」というのでしょうか。「安心感」と言い換えても良いと思います。それでは本当の「安心感」は、どのようにしたら手に入れることができるのでしょうか。たとえば、知らない場所に連れて行かれ、真つ暗闇な状況に放置されれば、誰でも不安になります。嫌んでも不安になります。嫌んでも不安になります。嫌んでも不安になります。

「救い」というのは、この方の取った行動は、自らの不安から出た行動であり、人々を混乱に巻き込みかねない行動でもありました。避難した方が、地震の発生がそこまで特定できるのであれば、一月十七日の地震も予知できたはずなんです。不安になると根柢のない情報に振り回されてしまうのです。

以前、あるところで「阿弥陀仏の救い」というタイトルの話す機会がありました。仏教の最終目標は「さとり」を聞くことですが、浄土教の教えでは「さとり」は死後で語ります。それでは生きてる間、仏教は私たちとは関係がないのかといえ

ばそうではありません。親鸞聖人は生きてる間の「救い」と、死後の「さとり」を説いています。今の「救い」があるからこそ死後の「さとり」もあるのです。今の「救い」なしに死後の「さとり」もありませぬ。

スポーツを通じて、棘と心、感情も感覚を見つめると、同じ状態、良い時も悪い時もずつと続くことはなく、瞬間で変わります。あらゆるものすべて、変わり移ろいゆく解る。現実、自分自身の意識が作ったもの。「変わりたくない」と思うなら、それは、そう信じている。思い込んでいる自分がいるだけ。

どんなことでも「難しい、できない」、「特別なこと」と感じてしまうと、余計なことに意識が向いて、力みになり、こたわりになる。また、最近では「合理的じゃない、無駄なこと、どうせ無理」という言葉をよく耳にする。無駄なこと、中途半端だとは自分の思い込み。失敗や挫折を遠回りに感じるかもしれないが、その道を歩んでこそ、見えること、分かることがあるし、何もしなければ、半端にす

「やってみる」ではなく、「やる」と決め、動く。「何事もやってみる」の意識は大事だが、「頑張り」は、考えてはいる、やってみる「やる」になるし、「まずは考える、合理的か否か、やる時間がない」という意味ではない。

「やる」と決めて、動く。「何事もやってみる」の意識は大事だが、「頑張り」は、考えてはいる、やってみる「やる」になるし、「まずは考える、合理的か否か、やる時間がない」という意味ではない。

「やる」と決めて、動く。「何事もやってみる」の意識は大事だが、「頑張り」は、考えてはいる、やってみる「やる」になるし、「まずは考える、合理的か否か、やる時間がない」という意味ではない。

「やる」と決めて、動く。「何事もやってみる」の意識は大事だが、「頑張り」は、考えてはいる、やってみる「やる」になるし、「まずは考える、合理的か否か、やる時間がない」という意味ではない。

「やる」と決めて、動く。「何事もやってみる」の意識は大事だが、「頑張り」は、考えてはいる、やってみる「やる」になるし、「まずは考える、合理的か否か、やる時間がない」という意味ではない。

「やる」と決めて、動く。「何事もやってみる」の意識は大事だが、「頑張り」は、考えてはいる、やってみる「やる」になるし、「まずは考える、合理的か否か、やる時間がない」という意味ではない。

「やる」と決めて、動く。「何事もやってみる」の意識は大事だが、「頑張り」は、考えてはいる、やってみる「やる」になるし、「まずは考える、合理的か否か、やる時間がない」という意味ではない。

令和2年4月月例礼拝日程表

日	曜日	講時	対象学生	担当
15	水	1	養育1	藤井
		3	国文3A・3B	小池・普賢
		4	現社3C・3D	内田・普賢
16	木	1	現社3A・3B	黒田・藤井
		2	食物1A・1B	塚本・井上
		3	心音3	塚本
		4	現社1C	佐々木
17	金	1	現社1A・1B	中西・西
		2	史学1A	西
		3	国文1A	普賢
		4	児童1	黒田
		1	心理1	黒田
		2	英語3A・3B	森田・清基
		3	英語3C	西
		4	法3	小池
21	火	1	英文1A・1B	秋本・野村
		2	教育1	井上
		3	児童3	佐々木
		4	現社1D	安田
22	水	1	造形1A・1B	井上・上野
		2	食物3	普賢
		3	国文1B	西
		4	史学3A・3B	塚本・野村
24	金	1	養育1	藤井
		2	福3	小池
27	月	1	現社3C・3D	内田・普賢
		2	現社3A・3B	黒田・藤井
		3	食物1A・1B	塚本・井上
		4	心音3	塚本
		1	現社1C	佐々木
		2	現社1A・1B	中西・西
		3	史学1A	西
		4	国文1A	普賢
		1	児童1	黒田
		2	心理1	黒田
		3	英語3A・3B	森田・清基
		4	英語3C	西
		1	法3	小池
28	火	1	英文1A・1B	秋本・野村
		2	教育1	井上
		3	児童3	佐々木
		4	現社1D	安田
		1	造形1A・1B	井上・上野
		2	食物3	普賢
		3	国文1B	西
		4	史学3A・3B	塚本・野村

令和2年5月月例礼拝日程表

日	曜日	講時	対象学生	担当
7	木	1	現社3C・3D	内田・普賢
		2	現社3A・3B	黒田・藤井
		3	食物1A・1B	塚本・井上
8	金	1	心音3	塚本
		2	現社1C	佐々木
		3	現社1A・1B	中西・西
		4	史学1B	上野
11	月	1	国文1A	普賢
		2	児童1	黒田
		3	心理1	黒田
		4	英語3A・3B	森田・清基
12	火	1	英語3C	西
		2	法3	小池
		3	英文3A・3B	森田・清基
		4	養育1	藤井
13	水	1	福3	小池

◎1回生…京女百年史ビデオ ※史学1B、法3A・1Bの月例礼拝は5、6、7月に行います。

標

本学が建学の精神としていたのは、親鸞聖人が生きるための智慧、生きるための智慧、生きるための智慧。聖人は老・病・死など様々な苦しみを乗り越える道を探り、最終的に阿彌陀仏の教えに辿り着いたのです。その出発点になったのは九歳の時でした。

世に出興するゆゑは、道を光闇して、群萌を拯く。ひ恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり。
〔仏説無量寿経〕

世に出興するゆゑは、道を光闇して、群萌を拯く。ひ恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり。
〔仏説無量寿経〕

世に出興するゆゑは、道を光闇して、群萌を拯く。ひ恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり。
〔仏説無量寿経〕

世に出興するゆゑは、道を光闇して、群萌を拯く。ひ恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり。
〔仏説無量寿経〕

世に出興するゆゑは、道を光闇して、群萌を拯く。ひ恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり。
〔仏説無量寿経〕

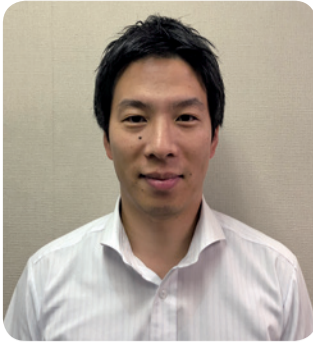
世に出興するゆゑは、道を光闇して、群萌を拯く。ひ恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり。
〔仏説無量寿経〕

世に出興するゆゑは、道を光闇して、群萌を拯く。ひ恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり。
〔仏説無量寿経〕

世に出興するゆゑは、道を光闇して、群萌を拯く。ひ恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり。
〔仏説無量寿経〕

世に出興するゆゑは、道を光闇して、群萌を拯く。ひ恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり。
〔仏説無量寿経〕

世に出興するゆゑは、道を光闇して、群萌を拯く。ひ恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり。
〔仏説無量寿経〕



見えるものと見えないもの

仏教学非常勤講師 野村 淳 爾

パン屋とガラス屋

先日、読んでいた本の中に印象的だった物語がありました。それはヘンリー・ハズリットの『世界一シンプルな経済学』で紹介されていたものです。長い文章なので、内容をまとめて述べます。

「あるパン屋が悪童によつて窓ガラスを割られてしまう。すると、近所の人たちは口々に『窓を割られたのは不運だったが、悪いことばかりでもない。たとえば、そら、ガラス屋が仕事にありつけるんじゃないか』といい、そこから『新しいガラスはいくらぐらいするだろうか。二五〇ドルといたところだろう』(そもそもガラスが全然割れなかったら、ガラス屋はやってはいけない)と話が展開する。この筋書きの論理的な結論を導き出すと、

第三の当事者
実は、物語には続きが書かれていました。「パン屋の主人は、その二五〇ドルで新しい衣服を仕立てるつもりだった。(中略)パン屋の主人は、窓ガラスと二五〇ドルの両方を持っていたのに、いまや窓ガラスしかないことになった。(中略)パン屋の主人を地域

こうなる。ガラスを割った悪童は、町に損害を与えるどころか、利益をもたらしたのだ。」
この筋書きがもたらす結論は、本当に正しいのでしょうか。たしかに窓ガラスが割れたことによつて新たな雇用が発生しているという点だけを見れば、正しいと言えます。しかし、これは物語の一面面を表現しているにすぎません。

共同体の一員と考えれば、この共同体は仕立てられるはずだった礼儀を失い、貧しくなったことになる。」(同)

つまり、パン屋の二五〇ドルの取引が仕立て屋からガラス屋に転換しただけであつて、新たな「雇用」はどこにも発生していないということになります。近所の人たちは、現場の当事者であるパン屋とガラス屋という「見えるもの」だけで判断して、仕立て屋という第三の当事者、「見えないもの」が

いる可能性を考慮しなかったのです。この後半の筋書きから、ハズリットは物語の結論として、「人は、直接目に映るものしか見ないものである」と指摘しています。

「ここでいう『目に映るものしか見ない』という

ことは、目の前の事象だけでなく、目の前の事象が示しているか、それ以外の事象が示しているか、その両方を考慮して判断する必要があるのではないか。」

この指摘は当たり前のことではあるけれども、意識しないと見過してしまふ、重要な視点です。もしかし、第三の当事者だけでなく、第四、第五の当事者がいたことも考えられます。「見えるもの」だけで問題をとらえると、「見えないもの」に思いを寄せづらくなることを意味しているのです。

「貧困問題」と言つた場合、どのような問題を想像するのでしょうか。特にここ数年日本では、「子どもの貧困」が話題になっています。一般的には、「貧困」という言葉は、金銭的問題から「住むところがない」「その日食べるものがない」「服がボロボロ」という、いわゆる「ストリートチルドレン」のイメージを抱かせてしまうと聞かれます。

「見えない他者へのまなざし」
冒頭の物語の「見えない」第三者の存在に思いをいたすように、社会では他者へのまなざしが求められています。しかし、「見えるもの」だけで判断してしまうことは、すべての事象を自分中心にとらえ、自己の延長線において語るため、限定的な他者へのまなざししかありません。

「見えないもの」による先入観を排除して、「見えないもの」の存在をどう考えていけるかが大事なのでしよう。普段の生活で意識しないところにまで意識をはたらかすことを心がければ、「見えない」他者へのまなざしを涵養することができるとは思いません。

「貧困」という「見える」言葉に引きずられて、その問題の本質を見失ってしまうように、「見えるもの」だけで判断してしまつたと、「見えないもの」にまで思いを馳せることができないことがしばしばあります。

「貧困問題」と言つた場合、どのような問題を想像するのでしょうか。特にここ数年日本では、「子どもの貧困」が話題になっています。一般的には、「貧困」という言葉は、金銭的問題から「住むところがない」「その日食べるものがない」「服がボロボロ」という、いわゆる「ストリートチルドレン」のイメージを抱かせてしまうと聞かれます。

「前中で示したような筋書きと同様に、「見えるもの」だけで判断してしまつて、まわりの生活に目を向けていないか。」

「前中で示したような筋書きと同様に、「見えるもの」だけで判断してしまつて、まわりの生活に目を向けていないか。」

「前中で示したような筋書きと同様に、「見えるもの」だけで判断してしまつて、まわりの生活に目を向けていないか。」

「前中で示したような筋書きと同様に、「見えるもの」だけで判断してしまつて、まわりの生活に目を向けていないか。」

「前中で示したような筋書きと同様に、「見えるもの」だけで判断してしまつて、まわりの生活に目を向けていないか。」

「前中で示したような筋書きと同様に、「見えるもの」だけで判断してしまつて、まわりの生活に目を向けていないか。」

「前中で示したような筋書きと同様に、「見えるもの」だけで判断してしまつて、まわりの生活に目を向けていないか。」

「前中で示したような筋書きと同様に、「見えるもの」だけで判断してしまつて、まわりの生活に目を向けていないか。」

法のことば

世に出現するゆゑは、道教を光臨して、群萌を拯むむに真実の利をもつてせんと欲してなり。

〔仏説無量寿経〕

仏教にはたくさんある経典があります。「仏のさとりを開く」という最終目標はすべて同じ。しかし、そこに到達するための方法は、多岐にわたります。では、どの経典が最高なのか。古来、多くの仏教者たちがこの問題に取り組んで、それぞれに最高の経典を見出してゆきました。『仏説無量寿経』という経典では、冒頭で釈尊が「私はこの教えを説くためにこの世界にあらわれた(世に出現した)のである」と高らかに宣言します。親鸞聖人はこの釈尊の宣言を根拠として、『仏説無量寿経』こそが最高の経典であることを明らかにしました。そして、そこに説かれる、「南無阿弥陀仏」によつてすべての者が仏のさとりを開くことができるという教えを、「浄土真宗」と名付けられたのです。

〔西義人〕

お知らせ

花まつり(灌仏会)

4月8日は仏教の開祖、釈尊(ゴータマ・シッダルタ)のお誕生日です。その日を「花まつり」(灌仏会)としてお祝いします。みなさんも一緒にお祝いしませんか? お祝いに宗教部オリジナル菓を差し上げます。

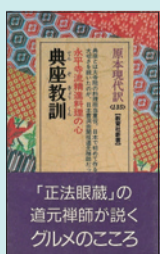
日時 令和2年4月8日(水)
※日程が変更となった場合は、京女ポータルにてお知らせします。
9:00~16:30
場所 A校舎正面玄関前



シリーズ 智慧の蔵(29)

典座教訓―永平寺流精進料理の心(教育社新書)原本現代訳

道元(著)・佐藤達全(翻訳) 教育社 一九八八年



本書は道元(1003-1073)の著作『典座教訓』と『赴粥飯法』の現代語訳である。それぞれの原文と書き下し文、和訳とが記されている。法まで詳しく定められている。その味は、苦・酸・甘・辛・鹹(塩辛い)・淡の「六味調和」し、「輕軟淨潔」が使用されており、専門家が使用されておられる。読者のためにも、道元は親鸞聖人と同じ鎌倉時代を生きた。曹洞宗をひらき、永平寺を修行道場とし、そこで生活の全てを修行と捉えた。とりわけ食事を重視し、食事番を「典座」とい、高い地位を与えた。『典座教訓』は、1236年、道元37歳の時の作である。一方『赴粥飯法』は、1242年、道元44歳の時の作である。『典座教訓』には、「心」についての言及が多い。特に巻末に「喜心」「老心」「大心」の三心について説く。喜心とは、典座の仕事をする時に喜びの心をもつて行なうこと。「老心」は、調理をする場合に、菜の扱い方、調理と味付けが子や道具でも、すべて親が子を養うときのようにならなければならない。相手が変えてはいけない。相手の身分によって高慢になつたり、へつらつたりしてはいけない。つまり差別をしない。作る人と食べる人の関係も重要である。典座は、心を込めて作った食事を提供し、食べる側の修行僧は、典座の心に感謝して食べる。現代人が、食事に對して忘れてくれていることを思い出させてくれる一書である。

〔井上 博文〕